

## 課題

次の文章は、G. Deleuze, "*Différence et Répétition*"の冒頭部分の和訳である。

反復は一般性ではない。反復と一般性は幾つかの方法で区別されなくてはならない。これらを混同した定式化は無残なものとなる：たとえば、二つのものは水滴の二しずくのごとくそっくりだといったり、「一般性に関わるものとしてしか科学は存在しない」ということと「反復することに関わるものとしてしか科学は存在しない」ということを同じだと考えたり。実は全くのところ、反復と類似性は異種なものなのである。

Deleuzeは、この著作で、一般性をもつと信じられている科学的概念の形成過程を批判している。普通は、反復可能な（あるいは再現可能な）事象から一般性をもつ概念が生まれると考えられるのだが、しかしそこに本質的な問題があると言うのである。その意味を説明することを目標に、以下の設問にしたがって小論文を作成せよ。

- 1) 物理学は、反復可能性をもって事象を「定義」してきた。たとえば、物体の落下は（Galileoがやったように）物体と地球という二体間の相互作用に還元された場合において反復可能であり、それをもって落下という事象の物理学における定義とする。このような「定義された事象」の例をあげ（物理学に限らない）、その定義の成立条件を明らかにせよ。
- 2) 反復可能性によって与えられた定義の有効性が保持されなくなる局面において「反復することについての科学」は失効する。たとえば、生命は環境との関わりによって無限に変化する動的なプロセスであり、反復可能性として捉えられる側面によってその全体像を明らかにすることはできない。前設問に対してあげた例について、どのような事態がその科学的概念の有効性を失わせるのかを議論せよ。
- 3) 反復不可能な現象の領域に科学技術の目を広げるためには、どのような考察が必要か、前設問に対してあげた例を用いて議論せよ。また、一般性とは何であるかを考えよ。

注意：（1）この小論文は単に知識を問うものではなく、論理的考察とその論述の能力、独創性を評価しようとするものである。（2）引用については出典を明らかにすること。